

2023年度 総合表彰式&懇親会

—八郷&伊賀 国際委託鳩舎特集—

- ・八郷・国際サクセス200K / 国際ウィナー300K
- ・伊賀・国際サクセス200K &  
サクセス200Kにおける連合会序列
- ・伊賀・国際ウィナー300K & 連合会対抗300K



令和5年度 日本エースピジョン賞全国5位

“五冠スーパーエース074”

21RB07074 BC ♂ 藤井孝彦鳩舎(北陸南・福井県連合会)作翔

23年春 北陸南連盟Rg 1,180羽中総合 27位(実距離451.166K / 分速1,067.469m)  
地区N 552羽中総合 4位(実距離628.252K / 分速1,486.107m)  
桜花賞 115羽中総合 4位(実距離926.784K / 分速1,340.833m)

北陸南連盟エースピジョン賞1位

北陸南連盟会長賞2位

福井県連合会エースピジョン賞2位

令和5年度 ベルギー王立愛鳩家協会会長賞北陸南連盟2位

# 表紙の鳩

## 今も生きる「北陸の伝説」！ 自身&国内最高峰のスーパーエース誕生！

令和5年度 日本エースピジョン賞全国5位

藤井孝彦鳩舎(福井県連合会)

「稲妻号」の誕生、「ゴッド・プリンセス」×「プリンセス」のブレイク、「ゴ70」による台湾鳩界での大成功、そして09年の「ゴールド賞」。過去にとらわれることなく、常に今に重点を置くことで、冒頭の金字塔を藤井孝彦鳩舎は北陸鳩界に打ち立ててきた。80歳を過ぎてなお競翔家魂は衰えることなく、今なお第二線を走り続けている。ところが22年末、あるニコイスが日本鳩界に一斉に広まった。「藤井鳩舎の引退。それが全くのフェイクだと一蹴させたのが、「レジェンド」藤井氏をもってしても初となるエースピジョン五冠鳩の誕生であった！」

### 日本鳩界に衝撃！ 北陸の伝説が引退？

あの藤井孝彦が鳩レースを辞められた噂を笑いで一蹴するのは当然の本人、藤井孝彦氏である。

「あるインターネットオークションで現役種鳩から総合優勝鳩自身まで出陳したので、勘違いされたんでしょうね(笑)」

北陸鳩界初のグラントチャンピオン鳩として一世を風靡した「稲妻号」の栄光に捉われることなく、「レース鳩の最新」に夢とロマンを求めてきた。本場であるヨーロッパのスーパーCHを次々と導入し、自鳩舎どころか、北陸鳩界全体の発展に大きく貢献。彼にとつてあくまで過程の「一つ」となるであろう「ゴ」

「プリンセス」×「プリンセス」のフィーバーは余りにも有名であろう。90年代以降は「より速くへ」という競翔家としての原点に立ち戻って、主に1000K以上のレース最遠距離地帯のCHやその一族に食指を動かしており、今なお戦力強化に余念はない。

結果、飛んでしまいがゆえに生じる「依存」を藤井氏は断ち切るため、つまり断捨離を行ったというのが冒頭の真相というわけだ。本人の思惑とかけ離れていたとあって、前述の感情は然るべきであろう。

とはいえ、このフェイクニュースが全国に広まったこともまた事実。この度の日本エースピジョンの受賞は、そういう意味で23年、最大の衝撃だったのではなかろうか。「レース鳩誌の日本AP賞の発表記事が出て、たくさんの方から『辞めてなかつたのか？』という連絡を頂きましたね(笑)」

### 自身初のAP五冠！ そして能力は日本一？!

真実を明らかにした受賞鳩は、日本エースピジョン賞だけでなく、連合会のエースピジョン賞2位、連盟では会長賞2位、KBDB会長賞2位、そしてこの2つをあわせた「エースピジョン賞」では堂々1位に選出。1羽のトリでエースピジョンタイトル五冠を達成したことは、60年以上第一線を走り続けている藤井氏をもってしても初めてだったようだ。ゆえに当初は「スーパーCH074」と受賞鳩に名付けていたところをこの規格外の翔歴から「五冠スーパーエース074」に改名している。

ちなみに入賞率では日本エースピジョン賞の全国5位となるものの、選手としての能力をより正確に判断できる平均分速率で分析した場合、堂々トップの「0.98172」をマーク！ 最高値が「1」ということから距離、展開関係なくパーフェクトに近い——というわけだ。1000Kの翔歴、かつ記録回数に最大のリスベクトをもっている藤井氏であるがゆえの評価に止まっている

と、ジャパンプ総合優勝(\*23年)を筆頭に数々の関東三大長距離レースのベストテン鳩を輩出。八郷国際鳩舎でも昨年、メインである国際CHの優勝鳩を誕生させており、オランダの名匠、テレンが絶賛した逸話もある「ゴースト」もあって、卓越した能力をいかなる後進に伝えている。その一方の母方に流れる「ロイ50」は、バルセロナを筆頭に数々のINレースの覇者を生み出し、オランダでは「伝説的」と言わしめるほどの銘血だ。

### 信念の象徴が呼び覚ます 最後の忘れ物への意欲！

その銘血を受け継ぎ、3年連続10

## 令和5年度 日本エースピジョン賞全国5位

※他の翔歴は表紙参照

### 10年度チャンピオン認定

“雷神号”  
06RB02582 BC ♂ 藤井孝彦 作翔  
シルバーエクセレントピジョン認定  
桜花賞1000K総合3位、5位、9位  
連盟銘鳩賞  
孫/“CHサクラ”(14年連盟銘鳩賞、15年CH認定)  
曾孫/“五冠スーパーエース074”(表紙)



“五冠スーパーエース074”  
21RB07074 BC ♂ 藤井孝彦鳩舎作翔

18RB04949 BC 藤井 作  
16RB00091 BC 藤井 作  
→ “雷神号”(左上掲)  
→ “プラチナ” B10-5182427 BC シュロロリス・ハウベン作  
→ “アマツィオ”(バルセロナN1106K5位、サンバンサンSN971K10位) × (ディエゴ・アルマンド・バルセロナ) 近親 × “オールドファーチェ” 重近親  
→ “CH206”(左下掲)  
→ “ダークエンゼル” 16RB00152 BC 藤井 作翔  
17年地区NG00K総合優勝、NPO会長賞中部地区1位  
→ “スーパー00” 13RB08300 BC 藤井 作  
→ “ド・サンバンサン” NL03-2251032 BC J.C.ルーロフ作翔  
サンバンサンN1100K5,226羽中5位  
→ “スーパーダイフ” NL02-1453976 BC フェルテルマン父子作翔  
→ “De33333” (\*07年ベルビニヤンIN優勝“エリー”の母方祖父) × “クライネン・オルファン” (\*母/“オルファン” × “ミラ”) の娘  
→ 15RB03484 BC 藤井 作 “スーパーダイフ” の孫

ナンクイーン)を生み出したことで知られている。ちなみにこの「エリー」自身、あくまでヒナの段階であったが彼らからのオファアリストに入っていたようで、もし藤井氏がトレッドしていたら——という鳩界特有のIFエピソードも。

また父方祖父に流れる、ク

“クライネン・リヒテ” NL02-1453964 BC フェルテルマン父子 作  
→ “コース”(ポルドーN優勝/基礎鳩“393”の孫) × “ロイ50”(サンバンサンN8位/基礎鳩“393”の直仔) の孫  
孫/“風神号”(10年北陸ブロック連盟沼田CH総合優勝)  
曾孫/“雨姫号”(18年度日本エースピジョン賞全国1位)  
→ “スーパーダイフII” 05RB05031 BC 藤井 作  
→ “ヘルマナートル”(01年バルセロナIN1306K14位) の全兄弟 × “スーパーダイフ”(“De33333”の娘)

### 17年度チャンピオン認定

“CH206”  
12RB00206 BC ♀ 藤井孝彦 作翔  
15年度KBDB会長賞中部地区10位  
桜花賞1000K総合4位、5位、61位  
連盟銘鳩賞  
孫/“五冠スーパーエース074”(表紙)



→ “11RB03012 BC 藤井 作  
→ “ミス・ワールレ”(04年サンバンサンN最高分速) の全弟 × “アンネット”(バルセロナN1205K優勝) の娘  
→ 10RB04004 BC 藤井 作  
→ NL02-1453976 BC フェルテルマン父子 作  
→ “マラトンマン”(北部マラトン賞1位/ファンデウエーゲン系) の直仔  
同腹の直仔/“電神号”(09年日本AP賞全国7位、桜花賞1000K総合優勝他)  
→ “スーパーダイフ” NL02-1453972 BC フェルテルマン父子 作  
→ “De33333”(バルセロナN1277K、サンバンサンN1117K各2回入賞) の娘  
異母妹の娘/“エリー”(07年ベルビニヤンIN優勝)

00K総合シグナル入賞を収めてCHの認定を受けた「雷神号」。同じくフェルテルマン父子の代表鳩である「マラトンマン」の曾孫で1000Kを3度入賞し、総合シグナル2回でこちらもCHに認定された「CH206」。「スーパーダイフ」の「直仔」×孫で作られた地区N総合優勝と自鳩舎作の会心作がダイレクトに絡んでおり、「CH」からCHが生まれるを体現。他にも「アマツィオ」や「アンネット」、ブリュッヘン兄弟の「オルファン」と「ミフ」、プリンクマンの「ベルマナートル」の全兄弟、コープマンの「ミス・ワールレ」の全弟、そして自鳩舎の種鳩である「ド・サンバンサン」と長距離レース最遠距離地帯の銘血の塊にもなっており、今における藤井氏の信念を形にしたような1羽だ。

藤井孝彦鳩舎(福井県連合会) 〒915-0051

るようだが、客観的にみれば、むしろ国内最高レベルのCHであり、また彼にとつても最高傑作といつて過言ではない。

### フェルテルマンの血が またしても覚醒！

血統は、00年代初頭に導入したフェルテルマン父子の飛び筋がその多くを占めている。これらは自身初となる日本エースピジョン賞の受賞(\*「電神号」)や北陸鳩界史上初にして唯一となった「ゴールド賞」獲得の原動力になっており、近年の藤井氏におけるナンパーワンの勝ち筋だ。がしかし——。

「CH自身ではなくその直仔であり、しかもまとめてオファアリスだったこともあり、導入直後はここまで主力になるとは、想像出来ませんでした」。

さて「五冠スーパーエース074」自身は、うち「スーパーダイフ」の奇跡の血量交配、かつ4重近親で作られており、その父「De33333」はフェルテルマン父子の代表鳩「エリー」(\*現名「ベルビ



藤井孝彦氏(24年2月21日撮影)